

# 筋書き独走 制止なく

郵便不正事件で虚偽有印公文書作成・同行使罪に問われた元厚生労働省局長に無罪を言い渡した10日の大阪地裁判決。全面的に検察の捜査を否定した判決が問いかける捜査の課題とその波紋を追う。

## 否定された検察捜査

厚生省元局長 無罪判決

「証明書は女性職員に 地検特捜部が逮捕した元もらった」「中年の色白 国会議員秘書で自称障害美人」

昨年4月下旬、障害者団体向け郵便料金割引制度を悪用したとして大阪



10日、大阪地裁で判決公判に臨む検察側(左)。この後、村木元局長に無罪が言い渡された

## 「甘い」自己批判の声も

の砂上の楼閣に沿って突描いた筋書きに沿って自らを迫る捜査手法のほころびを指摘する声も漏れ「何をさすか」「調書にサインしさえすればいいんだ」。昨年6月初めに、男性検事の取り調べを受けた元厚生労働省局長は、記憶なんてどうでもよくなった。用意された供述調書に署名した。元局長の部下だった元調査現場が描いた事件の構

「職人芸」衰えか 裁判員制度の開始で公判担当に人材を厚く投入。関係者は「裁判員裁判にはばかり気を取られ、捜査を担当する検事の育成に力を注がなかったツケが来た」と捜査能力の衰えを嘆く。同様に検察の組織運営の問題では、検事が特捜部に在籍する期間が短くなり、「職人芸が継承されなくなっ

長(54)だった。自供迫る割り屋

それが、国会議員の口添えによる「議員案件」として厚生省が組織的に証明書を偽造したという筋書きができる発端だった。地検特捜部は明かす。しかし、作り上げた筋書きは砂上の楼閣だった。倉沢被告は今、「村木元局長は会ったことがあった。」「(元局長から)もらってるんだろう」と言われ、記憶はあいまいだと答えたが、そう決めたと否認した。検察内部からも、捜査という指摘もある。裁判

同省係長、上村勉被告(41)は強引な取り調べの様子を拘留所内で書き留めていた。「検察が作ることもなかった。」「冤罪(えんざい)はこうして始まるのか」「そうして複数の関係者を「割り屋」と称して評価する風潮も強い。ある現職検事は、別の事件の捜査で「資料も証拠もなかり聞くよう上司に指示された」と打ち明ける。昨年5月に導入された裁判員制度による新たな潮流に対応できていないは、この答えになるのだろうか。

# 否定された検察捜査

厚労省元局長無罪判決

①

あった。

違法な取り調べを防ぐ  
目的で2003年に弁護  
士らが考案した被疑者ノ  
ートは、公判で信用性が  
認められない例も少なく

判子が「拘留所で書かれ  
た証しになった」と、立  
罪の公算が大きくなった  
と見るや、可視化推進の  
シンポジウムを判決翌日  
に開くことを決定。「可  
視化の神様が降臨してい

の証拠決定で元局長の無  
の必要性を強調した。  
これまで可視化の導入  
は、冤罪（えんざい）と  
判明した足利事件のよう  
な殺人事件で唱えられる  
ことが多かったが、日本

非現実的」と言い切った。  
同省が挙げる「裁判で  
供述の任意性を争うこと  
は少なくコストに見合わ  
ない」などの理由は説得  
力に欠ける。ただ、映像

をみる裁判員の負担が重  
くならないか、司法取引  
など捜査機関に新たな武  
器を与えるべきかなど、  
全面可視化の実現には解  
決すべき課題も多い。

「桜のスタンプにやら  
れた」。5月、証明書偽  
造について村木厚子元厚  
生労働省局長(54)の関与  
を認めた元係長、上村勉  
被告(41)の捜査段階の供  
述調書を、大阪地裁が証  
拠として採用しない決定  
をした直後、大阪地検幹  
部は悔しげに話した。

護人に返した際に拘留所  
が押した桜模様の判子が  
の可能性を指摘したが、  
6人全員が、取り調べの  
期待に応えるように、当

村木元局長の公判で  
は、証人出廷した取調官  
の「目玉」ゲストとして登  
壇した元局長の主任弁護  
人を務める弘中惇一郎弁  
護士は「調書の製造過程  
を隠し、成果物だけみせ  
るのは虫が良すぎる」と  
取り調べメモの廃棄を批  
判。「可視化されていれ  
ば無理やり調書を作れず  
(元局長の)事件はでき  
なかつたはず」と可視化  
告は「全事件の可視化は  
もしれない。

日は約23  
0人が集ま  
り、一般市  
民も予想以  
上が多かったという。

「可視化が必要」との問  
題意識が強い」と話す。  
「可視化の流れは不可避。  
事件によっては捜査の妨  
げになる恐れもあるが、  
全面的なオープンを前提  
にした取り調べを行う力  
をつけるべきだ」と話す。

一方、法務省や国家公  
安委員会は、実現に向け  
た検討作業を進めている  
ものの、捜査への悪影響  
取り調べなど捜査の在り  
方に見直しを迫った今回  
の事件が、刑事司法の流  
れを変える潮目になるか

「可視化でストップ! 違法な取調べ」  
〜検察捜査の現場から元局長の関与をめぐって〜  
大阪府検察庁 検事 小島 浩二

## 密室の聴取 メモは破棄



取り調べの問題点について考えるシンポジウム(11日、大阪市北区)

## 可視化求める声勢い

一般市民も関心  
大阪弁護士会は、5月

なかつたはず」と可視化  
告は「全事件の可視化は  
もしれない。

「可視化の流れは不可避。  
事件によっては捜査の妨  
げになる恐れもあるが、  
全面的なオープンを前提  
にした取り調べを行う力  
をつけるべきだ」と話す。

一方、法務省や国家公  
安委員会は、実現に向け  
た検討作業を進めている  
ものの、捜査への悪影響  
取り調べなど捜査の在り  
方に見直しを迫った今回  
の事件が、刑事司法の流  
れを変える潮目になるか